

述)を密着させ、さらにその上に厚手の硝子板をのせて圧着させ、上方から斑なく光を適当時間当てて露光させます。このようにすれば印画紙を通過した光はオリジナルの面で反射して再び乳剤面に当るのですが、字や線の印刷された黒い面からの反射は少ないので、乳剤層にあたる光に強弱を生ずるため、これを現像すればネガ印画紙が得られます。あとはこのネガをつかってプリンターで印画紙へ密着焼きすれば何枚でも複製が得られます。

これには、専用の複写機が市販されていますが、われわれにはそれ程のこともなく、プリンターを使って図の逆のようにして作業すればやりよい、密着しない個所があると部分的にボケるので、全面が圧着するように注意がいります。

両面が印刷されているオリジナルでは紙質が薄い場合、往々、裏面の印刷が薄く透けて表に現れているのでこのときはオリジナルの下に黒色紙を敷けば裏面で一樣に光線が吸収されるので、表に透けてみえるのを防ぐこ

とができ仕上りも美しくなります。

これに使う印画紙は薄手・硬調の印画紙が良く、このために専用の反射焼付用印画紙（三菱複写印画紙U、L・さくらエレコピーペーパー・オリエンタルコンマーションペーパーなど）があります。

現像液は指定現像液もよいが、D-72現像液を原液で使用しても結果が良い。

露光は60~100ワットの普通電球でよいが、なるべく全面平均に光が当るよう工夫します、露光時間は2・3回の試し焼きで自ら知ることができます。

出来上りのネガは全面が一樣にカブったようになりませんが、コントラストがついていればよろしい。

以上、簡単な方法について説明したつもりですが、説明不十分で理解されない点も多いと思います。要はむづかしく考えないで、あなた自身が実際にやってみることで、経験があなたにいろいろなことを教えてくれます。

学 界 消 息

1. インド、南鮮との文献交換

上記各国から日本気象学会に気象集誌の文献交換を希望して来た。インドの気象学会とは学会が直接交換をするが、南鮮は地質学会なので、気象庁図書課に頼み、気象庁が集誌を学会から買い、これで気象庁が交換することに諒解を得た。

2. 75周年記念論文集編集始まる

外国文では、ヨーロッパ各国およびアメリカ合衆国等から約20編の論文がすでに投稿され、これに国内の論文も着々と集まりつつあり、編集も始められた。

欧文編は気象集誌編集委員会がその編集にあたり、和文編は天気編集委員会が担当している。なおこれら論文集は9月1杯に出版される予定である。

(75周年記念論文投稿について)

表記論文の提出を申込まれた方は至急御送り下さるようお願い申し上げます。

3. IUGGの総会開かる

来る9月3日から14日にわたり、トロントにおいてIUGG (International Union of Geodesy and Geophysics, 国際地学地球物理学連合)の総会が開かれる。

4. 太平洋学術会議開かる

来る11月18日から12月9日にわたり、バンコックにおいて、第9回太平洋学術会議が開かれ、太平洋地域における地球物理学を含む学術一般が協議される。

・日本気象学会創立75周年記念事業資金密附者名簿(8)

昭和32年4月10日から5月11日までに御寄附を頂いた方々(到着順)は次のとおりです。なお、これをもって申込領収証に代えさせていただきます。もし掲載漏れの方がありましたら至急御連絡下さい。

113	滑川 忠 夫	11口
114	大谷 東 平	15口
115	岡野 敏 雄	11口
116	北沢 貞 雄	11口
117	藤田 哲 也	20口
	小計	68口
	総計	1,211口